
スマブラ物語

ホーミルスター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ物語

【Nコード】

N7283Y

【作者名】

ホーミユルスター

【あらすじ】

ある悩みを持っていたマスターハンド。その悩みが話を始める！
集まったメンバーのハチャメチャ生活です！

この小説、下手かもしれませんがどうぞよろしく！

更新は一週間程度でできるといいな…

（注意！）

ところどころにキャラ崩壊が見られます。それでもいい方はどうぞ！

スマブラ誕生！（前書き）

小説スタート！どうぞよろしく！

スマブラ誕生！

むかしむかし。あるところにニンテンドーという宇宙があった……

その宇宙にはマスターハンドという神がいてすべてのものを作った

……

そして宇宙の中心にスマブラ星を作った……

ここは神のみが入れる空間。そこにはニンテンドーの神、マスターハンドがいた。

マスター 「うーん。よし！できた！」

マスターには以前から悩みがあった。それはそれぞれの世界が孤立してしまい交流がほとんどないことだ。

そしてついにその悩みを解決する組織、「スマッシュブラザーズ」ができたのだ。

スマッシュブラザーズとは、各国や星の代表を集め、戦わせたり生
活させて交流しようという

ものである！

マスター 「手紙を送って終了！フフフ……」か月ほど後かな？楽し
みだ……」

こうしてスマッシュブラザーズ、略してスマブラが完成した。

スマブラ誕生！（後書き）

一週間程度で更新できるといいと思いますができないかも…
個人的に少しシリアスになる傾向がありますので…

マリオとルイージ

ここはマリオで有名な、キノコ王国。

ルイージ 「にいさん、にいさん、起きてよう。
もう10時だよ！」

マリオ 「あと一時間だけ…」

ブチッ

何かが切れた音がした。

ルイージ 「とつとと起きろバカ！」

マリオ 「弟の分際で何言っているコラァ！」

ルイージ 「にいさん。起きたね。」

マリオ 「あ……………」

そしてマリオが朝食を食べていると、ルイージが叫んだ。

ルイージ 「にいさん！なんかマスターハンドって人から手紙来てるよ！あつ僕にもだ……」

マリオ 「そんな人知らないけど……………読んでみるか。」

手紙の内容はこうだ。

拝啓 マリオ殿

私はマスターハンド。この世界の神だ。

スマツシュブラザーズ、略してスマブラを作った。
来てくれ。

まあ、向こうで説明するから来てくれ！頼む！頼む！
頼むんだ〜！うお〜！

自分でもわかんねーな。ちっ

あ、地図つけといたから見てね。

マスターハンドより

マリオ 「意味不〜！！！！！！〜っかなんで神なんだし」

ルイージ 「でも土管ついてるししばらく仕事もないし行く？」

マリオ 「じゃ、行くか。」

マリオたちは一応地図は見ておいた。どうも宇宙の中心スマブラ星のマスター大陸、ザーズ国のスーマ町らしい。

まあ、用意をしたりでどーのこーのたつて一時間後

マリオ 「出発！」

てろてろてろ ↑土管の音

マリオ 「結構立派な建物だな。」

そこにあつたのはマスターハンドのいると思われるスマブラ合宿所
があつた…………

ルイージ 「大丈夫かな…怖いよ…。」

マリオたちは恐る恐る扉を開ける。すると…………

中から巨大な手袋が出てきた！

マリ・ルイ 「！手袋！」

マスター 「ようこそ。スマッシュブラザーズへ。私が管理人兼神マスターハンドだ。まあ、こう言うのがしきたりだから怒った風に言っただけで手袋って言うな！」

マリオ 「なんか怪しい……」

マスター 「まあ、説明は後ですからてきとくに建物を探検とかしといてくれ。あ、部屋鍵は渡しておくから寝ててもいいぞ。ここ

の生活は一日中寝ていても怒られることはないからな。私には。」

マリオ 「じゃ、俺寝とく。えつと俺は101か…」

ルイージ 「僕はこの建物を探検するよ！」

そうしてマリオはこれから起こる「何か」を期待し、眠るのであった。

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

翌朝、マリオは目覚めた。

なんだかいつもより布団が柔らかく、違和感を覚えるとともに飛び起きた。

マリオ 「ううーん……………？……………あれ？ルイージが起きこしに  
来ないや……………？  
ってここはスマブラ合宿所だった！」

というか、あんたいい年してるんだからそろそろ自分で起きようね

マリオ 「うるさい！」

そんなこんなで起きたマリオはとりあえず着替えて、食堂へ向かう。  
しかし、彼はまだ今が10時だということを知らない。

1F 食堂

マリオ 「ルイージ、おはよ……」

ルイージ 「兄さん遅すぎッ！もう10時だよ！明日から8時に起きないと朝食抜き！」

マリオ 「そんな」

マリオはそう言って朝食を食べ始める。

しかししばらくすると見慣れない人がいて尋ねてみる。

マリオ 「……で、その美人と緑の青年と、ピンクボールは誰？」

リンク 「はじめまして、リンクです。緑の青年はちょっとやめといてください。」

サ姆斯 「はじめまして。サ姆斯よ。こう見えてもバウンディングハンター（賞金稼ぎ）をやっていたりするわ。」

カービィ 「はじめまして！ぼく、カービィっていうんだ！ポップスターからやってきたよ！」

マリオ 「はじめまして！俺はマリオ！よろしく！」

自己紹介が終わるとルイージが説明をした。

ルイージ 「この三人は兄さんが寝ている間に来たんだ。まったく兄さんはすぐ寝ちゃって…。昨日兄さんが寝たのはまだ5時だよ！」

マリオ 「いや…すまん、すまん。」

そこへ巨大手袋……いや、神であるマスターハンドがやってきた。

リンク 「でた」

マスター 「まあ、そういうな。ところでな、あとよていでは、ひーふーみー……7人来るはずなんだ。まあ、よろしく。」

全員 「それだけ！？というか人数ぐらい覚えておけよ！」

マスター 「うん。」

マスターさん。ここは普通に言っちゃだめですよ。

全員 「黙れ！」

神の声 「……」

マリオとルイージ（後書き）

うーん？みじかいの？ながいの？

## ゴリラ

マリオ 「ふわー。珍しく4時に起きてしまった……。」

ルイーダ 「ふわーおはよう……リンク、朝食づくり、手伝うよ……」

リンクは朝早起きなのでみんなの朝食を作ることになっていた。

また、リンクほどではなくとも早起きなルイーダも途中から作るのだった。いつもなら。

しかし……

マリオ 「遅いぞ！ルイーダ！遅いから朝食は俺とリンクで作っているからあっち行け！」

ルイーダ 「え！？にいさん！？何でいるの？」

リンク 「まあ、マリオさん、そう言わず手伝ってもらいましょう。」

マリオはルイーダからいつもブーブーいわれるので今度とばかりに  
！とブーブー言っていたのだ。

そして全員が起きて朝食が終わったところ……

「「「ギヤーツ!!!!!!!!!!!!!!」」」

フォックス 「な、なんだ？」

フォックスは気になって声のする方角……といっても二方向しかないのだが、その方角に行ってみた。

フォックス 「！サムス！」

サムス 「あら、フォックス？あなたも気になってきたのね？」

フォックス 「……………ああ。ところでこれはなんだ？」

フォックスはルイージの部屋がめちゃくちゃになっているのを見せた。

ルイージ 「……………う……………ううーん？……………ハッ！僕どうして  
たんだっけ……………」

???? 「いってーウホ！着地失敗…ウホ。」

そこにはゴリラがいた。

マスター 「ドンキー。こんなに荒っぽく来るな！」

フォックス 「知っているのか？」

マスター 「紹介しよう。新メンバーのドンキーコング、略してドンキーだ。」

????? ↓ドンキー 「はじめまして！ドンキーウホ！」

そしてこのことは夕食の時に伝えられ、晴れてドンキーはメンバーとなった…。のだがルイージの部屋を壊してしまったので、部屋を交換することになった。なお、いまはマスターが直している途中である。

## ムキムキおやじ

前の話から一週間後……

マリオ 「なんか誰も来なくて面白くないな」

カービィ 「そうだよ！マスターも後6人来るって言ってたし！」

サ姆斯 「今日あたりくるかもしれないわ。エネルギー反応が急速に近づいているわ。」

パワードスーツを着たサ姆斯がそういう。

フォックス 「……なんかまた同じパターンかもな。」

そして今日の夕食……

マリオ 「そういえば今日ルイーザ見かけないな。どうしたんだ？」

マスター 「何か、風邪でねてるとさ。」

リンク 「それでは。」

全員 「いただきまーす！」

フォックス 「そういえばマスターは食べないのか？」

マスター 「食ってもいいんだが、食べる必要がないからな。神は。」

カービィ 「おかわりー！」

ドンキー 「相変わらずカービィは早いな〜ウホ。」

ドンキーは来たばかりなので見たことはあるがまだ慣れないのだ。

ちょうどそのころ……



ドンキーを除く全員 「またかー。（飽きたよこのパターン）」

作者 「しょうがないじゃん。ちょっといいのが思いつかなかったんだよ。」

全員 「誰!？」

作者 「この小説の作者だよ!ちなみに、神の声は自分がやっていったんだよ。」

マリオ 「へ〜。」

神の声を知っているのはマリオだけ。

作者 「あ、神の声は全般ナレーションだから、そっちは気にしないで。」

こうして作者も交えた夕食が終わったところ……

作者 「じゃ、帰るね。」

全員 「ばいばーい」

全員 （ふう、あいつ帰ったよ。まったくうるさいな）

ルイージ 「ぼ……僕を忘れるな！っていつか犯人どこ行った！？」

ファルコン 「おれはここだ。キャプテンファルコン、ファルコンだ。よろしく。」

ルイージ 「よろしく……ってか僕の部屋めちゃくちゃだよ！」

ファルコン 「わリーわリー愛車がぶつかっちゃったぜ。しまつてくるからな。」

ルイージ （あいつムキムキだな……）

その後ルイージとファルコンは発見され、ファルコンは仲間と打ち解けた。ルイージは部屋を交換してもらい、一日が終わった。



外で遊べ！はしゃげ！はじけるー！そのー！

あれから三日…

マスター 「ちょっと外行ってくるから。みんなも行っていいぞ。」

全員 「イエーイ！」

マリオ 「よし、パチンコ行くぞー！」

リンク 「修業しますか。」

ファルコン 「レースするぞ！」

フォックス 「おれもアーウィンの試運転をしなきゃな。」

ファルコン 「お！じゃあ試運転にレースしないか？」

マスター 「レースならコースあるから。場所は…地図を見ればわかるか。」

全員の行く場所は以下の通り。

マリオ……パチンコ

ルイーザ……ショッピングモールで食材の買い足し

サムス……ショッピングモールでお買い物

カービー……食べ放題パーク（食いしん坊がいく食べ放題の店が満載の遊園地）

フォックス……ファルコンとレース（最難関ステージ）

ファルコン……フォックスとレース

ドンキー……ジャングルでバナナを食べる

パチンコ店

マリオ 「1000Gゴールド分ください。」

店員 「はい。玉、一万個です。」

マリオ 「よっしゃー……!!賞品もびっぞー!!」

チーンジャラジャラチーン!

マリオ 「うおー!!」

客 (うるさいな……こいつ)

客はこいつがあのだのミスターニンテンドーのマリオだとは知る由もなかった。

ショッピングモールにて……

ルイー ジ 「肉も買わなきゃな……」

ルイー ジ は面白くないので無視。

ルイー ジ 「なんで！？ひどいよー！！！！！！」

服屋で買い物をしているサムス。

サムス 「あーこれほしー！これも可愛いー！あ、これ今度新キヤラきたら男の子に着せたげよっかなー？（男の子男の娘化宣言）」

周りの客（特に男）

（恐ろしい……）

続く  
.....

外で遊べ！はしゃげ！はじける！〜その1〜（後書き）

感想、レビュー、アクセス数が少ない俺の作品は駄作なのか？

今回のサムスの恐怖発言（男性にとって女性にとっては楽しい人も  
いるかも？）は作者の遊び心です。ホーミユルスター気にしないでください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7283y/>

---

スマブラ物語

2011年12月20日18時47分発行